

第一十三回楽々俳句会(ちば)

令和六年十一月十四日(木) 晴 千葉神社九時

会場 支援センター九階

投句三句

2 4 神鏡に白髪撫づる小春かな

2 小春日や神木のパワー両の手に

御嶽さま妙見の隅つこ日向ぼこ

武久 4 神の前蓑虫蓑を脱ぎもせず

武 2 3 絵馬あまたたつぷり浴ぶる冬日差し

久 1 3 境内は普請のさなか神無月

1 2 廃校の落葉散るまま吹かるまま

3 絵馬掛けにひらがな多し七五三

武 3 朱の色の門に融け込む冬日かな 色は不要

朱の門の芯に融け込む冬日かな

2 四国路のフェーリーのデッキ星月夜

2 敷きつめし銀杏落葉の上に道

久 報恩講西の小島で歎異抄 で↓の

久 房の野や野猪駆除日は市のメール

武 2 冬温し朝日の中の朱の社

1 2 砂利庭の深き箒目落葉浮く

1 1 紅葉のさやぐ枝先百羅漢

1 秋晴や富士山鬼に隠れん坊

1 冬はじめ淋しさつのる夕暮れ時

3 神苑に流る水音秋深む

3 神水の落つる音聴こゆ石路の花

3 鯉の水底ゆるゆると冬ざるる

鯉たわむる底ゆるゆると冬ざるる

2 松籟や皆生の露天鳥渡る

1 風立ちて残りの枯葉落にけり

1 大妙見神鏡の奥工事中

武彦

恵美子

信雄 中七を隅

粹歩

久登

武彦

宣子

恵美子

粹歩

育子

洋子

利太郎

恵美子

豊隆

洋子

宣子

静代

弘子

成子

武彦

信雄

成子

弘子

久登

1 七五三孫の成長皺殖える 静代

1 早朝に妙見のほくらに願をかけ 季語無し 園子

妙見の願掛けほくら冬温し

1 豆名月大福求めて千葉神社 静代

1 掃き寄せてまた掃き寄せる落葉時 成子

1 千歳飴天にかかばてハイポーズ 宣子

一本の大根厚くおでんなべ おでん鍋

明日受験救急車の音冬の月

力石両手に伝ふ冬めけり 季語重ね

滝詣山を仰ぎて巻緋汁

卒寿過ぎ免許書返す寒空に

寒空や卒寿に免許返納す 季語重ね

緑紅葉滝に揺られし便り仕度

帰り仕度離れ難しや滝紅葉 季語無し

竹のつち水流きよしこけ生えて

神々の影にただよう秋気満つ

秋気満つ神々の影ただよいし 季語がない

富士山似願いこめしやかたむすび

冬日和願いの詰りを堅むすび

長髪の禰宜のお祓い七五三

照葉浮く鯉と目が会う神の池

冬日和内定式の顔二百

霜月や初冠雪の富士の山

成子・園子・育子・静代・恵美子・宣子・弘子・洋子 初冠雪は季語??

信雄・豊隆・利太郎・粹歩・武彦・久登

欠席 今日子・ミチ子

次回予定 十二月十二日(木) 登渡神社 九時集合 十時参集殿 茶話会

一月九日(木) 兼題「七種」 十時活動センター

二月六日(木) 兼題「節分」 十時活動センター

三月十日(木) 十時活動センター